

各地からのたより

木曽・王滝支援イベント

「木曽ヒノキの郷巡り」を開催

「木曽署・ふれセン・技術普及課」

木曽谷の林業・林産業を普及することと
もに、木曽復興支援にも資することとを
目的に、(一社)信州・長野県観光協会、
当局及び木曽広域連合が協力して「木曽

局と中部整備局の取組が重要」「苗木は
連携して進めないと需給調整が困難にな
る。」など今後の課題と連携の効果につ
いて話し合いました。

今後、事業及び関連情報の共有や技術
の開発・普及に関する連携、森林共同施
業団地の設定、中部局が実施するイベン
トや安全パトロールへの中部整備局の参
加など引き続き連携していくことを確認
し、第一回の会議を終了しました。



会議の様子

ヒノキの郷巡り」ツアーを、二月二十一
日・二十二日に開催しました。

木曽川下流域の方々を中心に参加を呼
びかけ、名古屋市をはじめとした愛知
県、三重県、東京都、長野県から総勢
二十四名の方々が参加してくださいまし
た。

名古屋事務所発着の貸切バス等で集合
した一行は、始めに上松町の製材工場
「池田木材株式会社」を訪ねました。

木曽署職員から人工林ヒノキのブラン
ド「**国産**木曽ひのき」の紹介が行われ、
同社の池田聡寿社長からは人工ヒノキと
天然ヒノキの丸太を前に、年輪の詰まり
の違いなど、木曽山の歴史を織り交ぜた
丁寧なお話があり、参加者は実際に木材
に触れながら真剣に聞き入っていました。



池田木材で説明を受ける参加者

製材工場内では、木の個性を活かすた
めの緻密な計算のもとで製材していると

聞き、皆さんカメラを構えながら木を敬
う姿勢とその技術に感嘆していました。

最後は、ヒノキの端材のお土産と共に
工場前で池田社長が伸びやかな声で「木
遣り歌」を披露され、参加者全員で掛け
声を合わせる楽しい一幕もありました。

木曽福島旧帝室林野局木曽庁舎「御
料館」では、木曽町観光協会からのご厚
意で名物の「すんき汁」の無償提供があ
り、「この酸味はクセになる。買って帰
りたい。」との声が聞かれるなど、地元
の手作り弁当と共に、木曽の伝統の味も
楽しんでいただきました。

また、館内の案内後は、長野県林業大
学校の学生四名と木曽森林ふれあい推進
センター職員二名の専用キットで、安全
なヒノキの箸づくり体験を指導の下、実
施しました。



完成した箸を手に記念撮影

王滝村の宿泊施設では、王滝観光総合
事務所から依頼された小谷宗司氏によ
り、「御嶽山の薬草や植物について」と
題し、王滝村の自然の魅力などお話をい
ただきました。

二日目は、この季節では珍しい雨模様
となったため、予定していた油木美林の
散策を急遽取り止め、宿から近い王滝村
の冬の名所「清滝」の迫力ある氷瀑を見
学しました。

その後、三岳・開田高原を周り、名物
の蕎麦やアイスクリームを味わい、最後
は木曽町観光協会のガイドさんの案内
で、福島宿の歴史や木の文化に触れる散
策を楽しみました。参加者からは、違う
季節にも訪問したい。伐採体験や伐採現
場の見学にも参加してみたいとの要望も
いただき、林業への関心を高めるととも
に、木曽の良さを知っていただいた有意
義な二日間となりました。

第三次雲ノ平植生復元事業計画の 策定関係機関と雲ノ平植生 復元事業検討委員会を開催

「富山署」二月十九日、富山署において
第三次雲ノ平植生復元事業計画の策定に
係る検討会を開催しました。雲ノ平植生
復元事業は、平成二十年度・二十二年
度を第一次計画、平成二十四年度・二十六
年度を第二次計画として実施しており、
本年度が第二次の計画期間の最終年度と
なります。

このため、昨年の九月九日から十一日にかけて実施した現地検討会を踏まえ、第三次計画を策定するため、検討委員会を開催したものです。

出席者は昨年九月に現地検討会に参加していたいた東京農業大学、薬師岳雲ノ平保護管理協議会（雲ノ平山荘）、環境省立山自然保護官、富山県自然保護担当者、富山市科学博物館及び市担当者（大山総合行政センター）等、総勢十三名となりました。委員会では、平成二十六年度の植生復元事業報告及び当初事業からの六箇年の総括の報告に続き、第三次（平成二十七年～平成二十九年）計画（案）及び事業実行に係る許認可申請関係の確認や、各関係機関の役割などについての意見交換を行いました。



検討委員会の様子

を対象地として計画され、引き続き現地の施工方法同様に、現地の地形等に合わせた細やかで丁寧な施工方法で行うこととしました。

また、委員から第三次計画が終了すると約十年となり、事業結果の成果が求められることから、これだけの面積を実行したということだけではなく、現地の荒廃状況に応じて、この場所ではこの様な施工方法が復元効果が大きい等の結果が得られることが大切であるとの意見が出され、調査内容の検討を含め三月末までに「第三次事業計画（案）」を修正し策定することとなりました。

この検討委員会を通じ、今後の実行体制のあり方等、関係機関との連携の方向や課題に対する情報の共有も図られた検討委員会となりました。

「森林総合研究所との技術交流会」 相互の知見・認識の向上をめざして

【木曽署】二月十二～十三日、木曽署管内において、木曽地方事務所、王滝村、中部森林管理局、南木曽支署から七十一名の参加をいただき、「森林総合研究所との技術交流会」を開催しました。

木曽地域の国有林は、国内でも有数の木材生産地で木曽ヒノキをはじめとする天然林や高齢級人工林等が生育しているほか、三十年前に発生した長野県西部地震の災害箇所（王滝村）の復旧状況など、研究機関や研究者にとって非常に興

味深いフィールドとして様々な調査が行われています。

これらの調査研究は木曽谷森林計画区の管理経営を考える上で重要であることから、平成二十三年より学術と行政との技術交流を通じて相互に木曽谷の森林の保全・整備に関する知見や課題の共有を図ることを目的として本交流会を開催しています。

初日は、木曽署多目的ホールで発表会を行い、森林総研から①長野県西部地震により発生した岩屑流発生跡地の三十年後の土壌、植生の回復状況等三課題、②木曽ヒノキ天然更新に係わるササの抑制効果及び更新試験、赤沢木曽ヒノキ林の直近六十年間の生長解析など三課題、国有林からは、①高齢級人工林ヒノキのブランド化、②民国連携による木曽地域の林業再生の取組、③温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組（木曽悠久の森）の3課題を発表し、それぞれの課題について意見交換を行いました。



御嶽崩れの現況（展望台より）

発表会終了後は、宿泊場所である王滝村の民宿に移動し、お酒を酌み交わしながら森林や林業にまつわる情報交換を行いました。

二日目は、長野県西部地震（御嶽崩れ）災害跡地における森林総研モニタリング調査結果に関する分析を行い、当署から災害後三十年間の災害復旧の歩みと、昨年九月二十七日に発生した御嶽山噴火災害への対応を報告するなどし、二日間の技術交流会を終えました。



現地見学箇所での意見交換風景

なお、本交流会は昨年の十月六～七日で計画していましたが、御嶽山の噴火により見合わせていたところです。

今回、森林総合研究所をはじめ関係する方々のご理解とご協力により、王滝村で開催することができ心から感謝申し上げます。

信州大学生への 職場説明会を実施

【南信署】一月二十三日、信州大学農学部森林科学科二年生を中心とする学生三十五名を対象に職場説明会を実施しました。この取り組みは、例年信州大学からの要望を受け実施しているものです。

当日は、署長の国有林野事業の概要説明を始め、森林官や森林整備官等による各担当する業務内容、林野庁の採用情報、毎年実施しているインターンシップ情報等について、職員十一名で説明を行いました。



森林官業務について説明する伊那里首席森林官

説明終了後の質疑応答では、特に木材の安定供給や食害対策についての質問が寄せられ、職員の回答に熱心に聞き入っていました。

また、終了後行ったアンケートでは、学生から「職場説明会に対する人数のかけ方に熱意を感じた。」「公務員は様々な分野の能力が必要であると感じた。」「公務員は事務職のみと思っていたこともあり、現場での仕事があることは意外だった。」といった意見を多くいただきました。



質疑応答の様子

アンケートの意見にもあったように、実際に働いている職員の話を聞けることが公務員の仕事に対する印象の変化や、国有林野事業への興味につながっています。こうした話を聞いた学生の中から、インターンシップへの参加やその先の林野庁への就職へとつながるような学生が出てくることにも期待をしながら、今後この説明会を継続していきたいと考えています。

「中学生が職場にやってきた」

【中信署】三月三日、静岡大学教育学部付属浜松中学校一年生八名が来署しました。

浜松中学校では、総合的な学習の時間を「ライフタイム」と称して様々な職場を訪問することで生徒自身の興味・関心に応じ、課題を追求して自分の生き方・あり方を考える学習があります。

今回、生徒たちは浜松と長野県中信地区との林業の違いや、自然を守る人の生き方について学ぶことをテーマに職場を訪れました。

吉野署長からの管内概要説明と経験談に生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



吉野署長の概要説明を聞く生徒

また、保存的自然保護と現状維持的自然保護の違いの説明については専門用語が多い中、一生懸命メモを取っていました。

短い時間ではありましたが、将来、どのような大人になるかを模索する多感な世代に向けて、「森林作り＝人作り」の大切さを通して、人生の先輩としてエールをおくることができたと思います。

最後に記念として、各生徒に『光陰如矢（光陰矢の如し…時間を大切に）』などの格言を書いた色紙をプレゼントして今回の訪問を終えました。



【北信署 水内森林事務所】

森林官 内藤貴幸

水内森林事務所の位置する栄村は豪雪地帯であり、事務所から徒歩五分の所のJR森宮野原駅には日本最高積雪地点（昭和二十年積雪七・八五メートル）の標柱が建っています。

今年は、積雪量が例年より多く二月時点で、その標柱の半分は雪で埋まっています。



標柱の前に立つ森林官



署職員等と協力して休憩所の雪下ろし

平成二十三年三月十二日の長野県北部地震では栄村は甚大な被害を受け、その被害により森林事務所が全壊したため、平成二十五年三月に新しく森林事務所を建て替えました。

水内森林事務所の管轄面積は、栄村・山ノ内町の国有林で一七、一六七ヘクタールです。大まかに区分すると、千曲川を挟んで北と南に分かれており、北は野々海高原に代表される中山峰国有林。南は秘境・秋山郷に代表される赤石沢国有林、鳥甲国有林、奥志賀高原を含む岩菅国有林です。

栄村の国有林は比較的なだらかな林地で大部分をスギが占め、奥山はブナを主体とした広葉樹林です。貴重な自然と生態系を保護するため、月夜立特定地理等保護林、苗場山湿原植物群落保護林、佐武流山周辺森林生態系保護地域等が指定されています。

事務所の主な業務として今年度は、森林整備事業（四二ヘクタール）や製品生産事業（二七ヘクタール）の実行に伴い、その監督を行っています。豪雪地帯の樹木は、極度な根曲がりや打ち出し部分が他地域より多くありますが、栄村の北野天満温泉の木質チップボイラーや長野市のいづなお山の発電所等の木質バイオマス燃料等にも利用され、林地残材の有効利用を進めています。



栄村森林組合が実施している根曲がり材を使ったチップの作成

また、事業地内に生育する広葉樹の大径材の販売に力を入れ、そのような木があれば署へ連絡し、有利に委託販売できるように採材に気をつけ搬出しています。

地域との繋がりとしては、NPO法人「信越トレイルクラブ」と「関田トレイル」の維持管理等活動に関する協定を締結し、今年度はトレッキングコース沿いのカシノナガキクイムシによる枯損木伐採作業を行いました。



関田トレイルの危険木処理

また、毎年行われる栄村観光協会の総会や遭対協総会、秋山郷山開き、野々海池大明神祭等に出席し、市町村関係者や、地元住民の方々と意見交換しています。

平成二十六年十二月に日本ジオパーク協会より、苗場山周辺が苗場山麓ジオ



ジオパークに認定された苗場山

パークとして認定がされました。苗場山周辺の国有林も見所のスポットとなるため、今後はジオパーク保全部会等に参加し多くの人々に国有林をアピールできるよう努力していきます。

最後に、当事務所には森林技術員等がいないため、人手がいる調査等は署や近隣の森林事務所（木島平、野沢）、臨時作業職員と一緒に業務を行っています。

今後も連絡調整を密にし、応援協力しながら、安全第一で明るく元気に現場業務を遂行していきます。

人のうごき

◎第一回森林管理署長等会議

4月16日～17日 中部局

◎生産・販売事業担当者会議

4月21日～22日 中部局

お悔やみ申し上げます

故 奥原 豊氏

木曾署 関田森林事務所 森林技術員

森林技術員 奥原 豊氏（五十八歳）は三月十一日に、ご逝去されました。

奥原氏は、王滝営林署、木曾森林管理署に勤務され、活躍されてきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



夕日に映える北陸新幹線高架橋

◆北陸新幹線開業

平成二十七年三月十四日、北陸新幹線・長野・金沢間が開業しました。糸魚川市には列車名「はくたか」が一時間に一本程度で発着します。これにより糸魚川～東京間の上り列車が現行の最速所要時間を約三〇分短縮され二時間四分となります、下り列車の最速は一時間五九分となります。



◆糸魚川世界ジオパーク

糸魚川市は日本を東西に分断する大地溝帯「フォッサマグナ」の西縁に位置し、特異な地形・地質に巡り会える貴重な地域です。



高浪の池と石灰岩からなる明星山

自然環境の保全、教育への活用、ジオツーリズムの推進、地域振興への寄与等、そこで芽生える文化とともに大地の遺産として、二〇〇九年日本で初めて世界ジオパークに認定されました。現在、糸魚川ジオパークには二十四のジオサイト（見学地）が設定され、日本列島誕生の歴史を垣間見ることが出来ます。

また、糸魚川駅発着のガイド付き定期観光バス「糸魚川ジオまる号」が定期的にコースを変えて運行されており、三月十四日～二十九日まで天下の険として知られる国の名勝「親不知」やフォッサマグナミュージアムなどを巡る「松尾芭蕉の史跡めぐりコース」が運行予定で



上質な巨大ヒスイ「翠の雫」

ヒスイは古代から装飾品として珍重され、ここ糸魚川地域が日本最大の産地となっています。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や青森県の三内丸山遺跡で出土したヒスイ製品も糸魚川産でした。今でもヒスイの原石を求めて姫川沿いや海岸を散策する人々がしばしば見られます。見つかる石の種類は日本一とか。

◆ヒスイとフォッサマグナミュージアム



糸静構造線の断層露頭

そんな鉱物の魅力を深く理解できるのが年間六万人以上が訪れる人気の博物館「フォッサマグナミュージアム」で、三月九日リニューアルオープンしました。珠玉のヒスイ「翠の雫」の展示をはじめ、鉱物標本などが映像資料を交えてわかりやすく展示されています。

また、国史長者ケ原遺跡から出土したヒスイの加工道具や土器・石器などを展示する長者ケ原考古館も隣接していますので併せて見学することができます。



光を透過し輝くヒスイ

◆アクセス方法

●糸魚川へは

長野市から北陸新幹線で三六分

松本市から大糸線で三時間半

●高浪の池

北陸自動車道糸魚川IC下りて四〇分

●定期観光バス「ジオまる号」

駅アルプス口バス乗場から土日祝運行

●フォッサマグナミュージアム

北陸自動車道糸魚川IC下りて五分